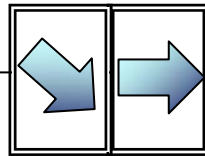


経済フローチャート

～日本経済の現状と6ヶ月見通し（9月8日時点）～

国内景況感

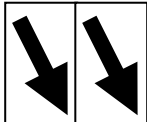
資源価格の高騰による企業収益の悪化や物価上昇に伴う実質所得の押し下げを主因として内需が低迷しており、景気は悪化傾向にある。当面、景気は停滞感を強めるだろう。



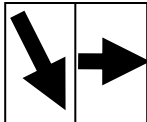
現状 6ヶ月後

(2008年7-9月期) (2009年1-3月期)

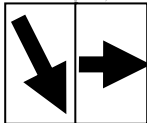
①世界経済



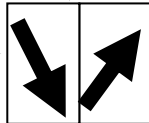
②輸出



③生産



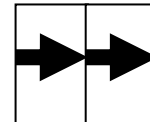
④企業収益



⑤設備投資

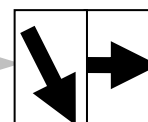


⑨公共投資



国内需要

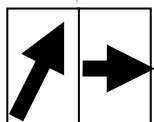
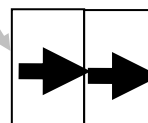
⑦個人消費



⑥雇用・賃金



⑧住宅投資



⑩物価

(注) 矢印の方向は、当該時点でのモメンタム（景気の勢いが前期より高まる場合は▲、減速する場合は▼）を示す。

	コメント
①世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ・世界景気の本テンタムは、新興国の底堅い成長等を背景に急失速の可能性は低いものの、サブプライム問題やエネルギー・原材料・食糧品価格の高騰により停滞感の強い状態が続くとみられる。 ・米国経済は、09年前半にかけて、景気対策効果の剥落、世界経済の鈍化、エネルギー・原材料価格の上昇、銀行の融資基準の厳格化による投資の減速等によって鈍化傾向を辿ると見込まれる。 ・ユーロ圏経済は金融市場の混乱、ユーロ高の影響に加えてエネルギー価格の上昇によって減速傾向を辿り、潜在成長率を下回る成長が予想される。 ・アジア経済もエネルギー・原材料・食糧品価格の高止まり、金融の引き締め、世界的な成長鈍化の影響を受け減速傾向を辿ろう。
②輸出	<p>オイルマネーを背景に、消費が拡大している中東、ロシアなどの新興国向け輸出が引き続き好調である。一方、米国向けの減少が続いていることに加え、このところ、欧州向けやアジア向けの減速が目立ち始めており、輸出全体で見ると伸びが鈍化している。海外経済の減速が続くと予想されることから、当面、輸出は減速傾向で推移すると見込まれる。</p>
③生産	<p>海外景気の減速に伴って輸出が鈍化していることに加え、企業が先行きの景気動向に対して慎重になっていることから、生産は減少している。7-9月期の生産予測指数も減少見込みであり、当面、生産活動は弱含みで推移すると予想される。</p>
④企業収益	<p>原材料高や生産活動の停滞から、企業収益は悪化が続いている。原油価格の高止まりが続いていることから、当面、減益の圧力が続く可能性が高いが、年度下期には、原油高の悪影響が次第に和らいでくることから、企業収益の悪化に歯止めがかかると予想する。</p>
⑤設備投資	<p>企業収益の悪化に加え、景気低迷に伴って企業の投資意欲が減退していることから、設備投資は減速している。ただし、高水準の受注残が下支えとなるほか、設備の過剰感も乏しいことから、今のところ大幅な減少基調は避けられると予想する。</p>
⑥雇用・賃金	<p>このところの景気減速を受けて、雇用・所得環境は力強さを欠いている。ただし、先行きについては、景気後退がそれほど深刻なものにならないこと、企業に雇用の過剰感が乏しいことなどから、調整は限定的なものにとどまると考えられる。</p>
⑦個人消費	<p>生活必需品価格の上昇が続いていることや、消費者マインドが引き続き低水準にあることなどを背景に、個人消費は弱含んでいる。物価上昇の持続が予想されることから、当面、停滞感の強い状況が続くと考えられる。</p>
⑧住宅投資	<p>07年9月をボトムとして持ち直し傾向が続いていたが、足元では回復に足踏みがみられる。価格高騰を背景とした住宅販売の大幅減少や在庫の増加等から住宅メーカーの供給意欲が減退しており、先行きも住宅投資は低調に推移するだろう。</p>
⑨公共投資	<p>公共事業関係費は前年割れが続いており、公共投資は減少基調が予想される。国・地方ともに財政状況は極めて厳しく、公共投資が増額される可能性は低いだろう。</p>
⑩物価	<p>石油製品や食糧品価格の上昇により、消費者物価指数はプラス幅を拡大している。7-9月期には前年比+2%を明確に上回るだろう。10-12月期以降は緩やかに鈍化するとみられるが、高い伸びが続く見込みである。</p>